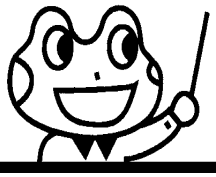


ひらがなとカタカナは、どうしてできたの

●最初は、日本語を漢字で書いた

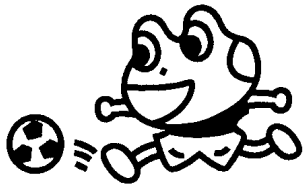
日本には、もともと、文字がなかったので、中国の漢字を取り入れました。しかし、中国語を書くための漢字を、ことばのしくみがまったくちがう日本語に使うのは、たいへん不便でした。そこで、漢字の意味に関係なく、漢字の音や訓を使って日本語の発音を書き表すことが、始められました。たとえば、「あ」の音を書くときには、阿・安・愛・吾・足・我などの漢字が、使われました。このように、漢字の意味とは関係なく、日本語の音を表すために使われた漢字を、「万葉仮名」といいます。「万葉集」に多く使われました。

●お坊さんがカタカナをつくった

平安時代に、お寺のお坊さんたちが、お経の文章の横に書きこみをするときに、画数の多い万葉仮名（漢字）を省略し、漢字の一部を文字として、使い始めました。これが、カタカナの始まりです。

●女性がひらがなをつくった

また、平安時代には、身分の高い女性の間で、手紙や和歌を書くときなどに、漢字の草書体をさらにくずして、簡単な形にした文字が、使われるようになりました。これが、ひらがなの始まりです。（監修・田代　脩）



無断複製：転載：翻訳を禁ず　Gakken